

自衛官の処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する

関係閣僚会議（第５回） 議事要旨

日 時：令和７年６月１０日（火）１４：５０～１５：１５

会 場：官邸２階小ホール

出席者：石破内閣総理大臣、林内閣官房長官、中谷防衛大臣、坂井国家公安委員会委員長兼内閣府特命担当大臣（防災）、あべ文部科学大臣、小泉農林水産大臣、富樫総務副大臣、斎藤財務副大臣、仁木厚生労働副大臣、高橋国土交通副大臣、竹内経済産業大臣政務官、橘内閣官房副長官、青木内閣官房副長官、佐藤内閣官房副長官、長島内閣総理大臣補佐官、岡野国家安全保障局長、阪田内閣官房副長官補、小林内閣広報官、大和防衛省防衛政策局長、青木防衛省人事教育局長

- 中谷防衛大臣から、配布資料を用いて以下の説明があった。
- ・ 昨年、本閣僚会議では、自衛官の処遇改善等に関する「基本方針」を取りまとめました。
- ・ 本日は、その「基本方針」の進捗状況と効果、今後の進め方についてご議論をいただきます。
- ・ 「基本方針」について、隊員などに周知してまいりました。
- ・ アンケートによれば、自衛官の９割が取組を知っている、８割が好意的に受け止め、５割は勤務意欲が向上するなど前向きな意識の変化がありました。
- ・ 募集対象者にもフライヤーを作って周知いたしました。
- ・ その結果、「基本方針」による入隊促進の効果を確認しました。
- ・ 防衛省公式 X（エックス）でのシリーズ発信では、合計インプレッション数が防衛省として史上最高を記録しました。
- ・ 募集への影響です。
- ・ 人材獲得競争が激化する中でも、自衛官候補生の応募者数が５年振りに増加するなど、改善傾向への転換が見え始めました。
- ・ 任期制隊員の任期継続率も上昇し、中途退職者数も減少しました。
- ・ 自衛官全体の充足は引き続き厳しい状況ですが、各施策を推進して人材確保に繋げてまいります。
- ・ 予備自衛官等の充足向上に向けても、広報・情報発信を行いました。
- ・ 「基本方針」が予備自衛官等への志願促進にプラスの効果があることが確認できました。
- ・ 実際に、予備自衛官等の志願者数、継続者数も増加しています。
- ・ 予備自衛官等の充足率は厳しい状況が続いていますが、引き続き、広報や情報発信を促進して、充足状況を改善してまいります。

- ・ 「基本方針」に基づく事業を令和7年度予算に計上するとともに、防衛省設置法等の改正案が成立して給与面の処遇改善が実現しました。
- ・ 生活・勤務環境の改善も推進しプライバシーを確保した、くつろぎの空間に営舎が生まれ変わりつつあります。
- ・ 退職自衛官の再就職先拡充のため、関係省庁と連携して申合せや依頼文を発出しました。その結果、求人数も1.4倍に増加し再就職先が拡大しています。
- ・ 海上保安庁や消防庁と連携して退職自衛官の公的部門への活用も推進しています。
- ・ 地方公共団体での活用も推進し、在籍者数・地方公共団体数ともに増加しています。
- ・ 再就職に向けた職業訓練なども充実するとともに、災害ボランティア団体との連携も推進しています。
- ・ 国土交通省と連携して、海技士等の公的資格の取得プロセスの簡素化も実現しています。
- ・ 定年年齢については、記載の要領で令和10年から2歳引き上げてまいります。
- ・ 防衛省に新たに「処遇・給与部会」を設置して議論を重ね、若年定年退職者給付金の給付水準の引き上げや自衛官俸給表の改定に向けた検討も進めています。
- ・ 令和7年秋の叙勲から、受章機会のなかった者にも対象範囲を拡大いたします。
- ・ 今まで対象でなかった者も、特にA幹部1佐にも、そしてその下にも叙勲がいただけるようになりました。
- ・ 令和7年度に十分な採用者数が確保できるよう、引き続き「基本方針」に基づき各施策を強力に推進してまいります。
- ・ 隊員のニーズを踏まえ、新たな方策も不断に検討してまいります。
- ・ 更に、学生等や生徒の魅力化にも取り組んでまいります。
- ・ 引き続き本閣僚会議で効果の検証やフォローアップを実施してまいります。
- ・ 各大臣のご協力のおかげで採用数、求人数や再就職先の拡充に良い数字・成果がでています。今後ともよろしくお願いします。
- ・ 各閣僚におかれましては、検討の方向性について、ご意見をお願いします。

● あべ文部科学大臣から、以下の発言があった。

- ・ 昨年末に決定された基本方針も踏まえ、文部科学省では防衛省が実施する自衛官の再就職に向けた職業訓練の充実等に向けて、様々な御提案や検討をしてまいりました。
- ・ 例えば、防衛省職員が利用する福利厚生ホームページに、自衛官専用の再就職支援ページを新設し再就職に有利となる資格取得・講座受講を支援することを提案し、その資格講座等に係る情報提供等を行いました。
- ・ また、在職中から大学等において、教職を含め、退職後の希望に沿った再就職に必要な知識や技能を修得する機会の充実のため、通信制大学等も活用した仕組みについて検討を進めています。
- ・ 引き続き、教育を所掌する文部科学省として、有する知見をフルに活用しながら、防衛省の検討に積極的に参画してまいります。

- 小泉農林水産大臣から、以下の発言があった。
 - ・ 少子・高齢化が進む中、農林水産業の現場においては、人材獲得が重要課題となっております。こうした中で、自衛隊で豊富な知識や技能を培った退職自衛官の方々に、農林水産業界で御活躍いただくことは、大変意義があると考えています。
 - 私の地元もキャベツ、大根の産地の横須賀ですが、自衛隊の全国の駐屯地・基地あるところにはかなり一次産業の場がありますが、ぜひそういう取組が具体的に進んでいくことを期待しております。
 - ・ 先日、私と中谷防衛大臣、そして農林水産業の関係団体の皆様と自衛官の更なる活躍促進に向けた申合せを締結しました。これを土台として、職業訓練の充実など、就業促進に向けた具体的な対応を進めてまいります。

- 坂井国家公安委員会委員長兼内閣府特命担当大臣（防災）から、以下の発言があった。
 - ・ 国家公安委員長として、退職自衛官のより円滑な再就職等に向け、本年３月、警備業界に対して、警察庁と防衛省の連名による文書を発出し、依頼を行ったところです。
 - ・ 都道府県によっては、自衛隊駐屯地での就職説明会の開催や警備員の資格取得のための講習会への参加の働きかけなどの取組もなされていると承知しています。
 - ・ 警備業界においても人材の確保が厳しい情勢にあり、引き続き、広報や職業訓練といった取組をはじめ、業界と自衛隊が連携した人材確保の取組の推進を図ってまいりたいと思っています。
 - ・ そして、防災担当大臣としてですが、地域防災マネージャーである退職自衛官の方々が、地方公共団体の防災監等として御活躍されることは、地域の防災力向上に大変意義のあることと認識しています。
 - ・ このため、引き続き、その採用の拡大や処遇の確保が進むよう、防衛省とも連携し、地方公共団体に対して働きかけるとともに、地域防災マネージャー制度について、財政措置を含めて、その在り方についての検討を進めてまいりたいと考えています。

- 高橋国土交通副大臣から、以下の発言があった。
 - ・ 国土交通省としては、これまで、業界団体等と 11 の申合せを締結しました。この申合せに基づき、業種ごとの説明会など、申合せの実効性が確保できるよう、しっかりと取り組んでまいります。
 - ・ また、公的資格の取得プロセスの簡素化については、海技士免許において、本年４月から講習の一部免除を拡充したほか、航空整備士の資格において、夏頃から簡素化に資する新たな枠組みの運用を開始します。

- 斎藤財務副大臣から、以下の発言があった。
 - ・ 自衛官・予備自衛官や入隊希望者の意欲が向上していることは好ましい結果であると考えています。
 - ・ 「基本方針」に基づく各種改善策の効果は、必ずしも即時には現れないため、引き続

き、フォローアップを行いつつ、改善策をしっかりと広報していく必要があると考えます。

● 竹内経済産業大臣政務官から、以下の発言があった。

- ・ 自衛官の処遇・勤務環境改善は、防衛産業基盤の維持・強化に資するものであり、経済産業省としても重要と考えています。
- ・ 昨年の基本方針を踏まえ、航空・防衛、自動車、産業機械、素形材、電気保安、そして中小企業といった経済産業省が関係する 27 の団体等に対し、各業種を理解できる説明会を開催することや、採用に関する広報を積極的に実施することについて、防衛省と共に協力依頼を行いました。
- ・ また、自衛官への職業訓練支援強化に向けては、経済産業省のリスキリング施策を踏まえつつ、自衛官のニーズに即した形となるよう、防衛省において検討を進めていただいております、引き続き連携させていただきたいと考えております。
- ・ 引き続き、自衛官の処遇の改善に資するよう、経済産業省としても取組を行ってまいります。

● 石破内閣総理大臣から、以下の発言があった。

- ・ 中谷大臣をはじめ、各大臣の皆様、大変ご協力をいただきました。昨年の 10 月くらいからスタートして、半年くらいですが、防衛大臣から説明があったように確かに数字は上がってきたということだと思っております。やればできるというか、官房長官も私も中谷大臣も防衛大臣を経験したのですが、その時なんかしなきゃと思うのですが、各省庁のご協力がないと出来ない。防衛省だけではいくら頑張っても中々できなかったものでありまして、こういうような会議体を作って所管庁にお願いしたところであります。お力をいただきまして本当にありがとうございました。
- ・ 自衛隊というのは最高の規律を求められるのは当たり前で、戦車だ戦闘機だ護衛艦だみたいなものを操るわけですから、そこに最高の規律がないと国家そのものが成り立ちませんので、最高の規律は当たりまえだと思っております。
最高の規律があるから最高の栄誉だとか、最高の処遇があるかと、それは必ずしもそうではないと自覚しているのではないかと思います、それは国家としておかしいだろうと私は思っております。
- ・ 今、随分いろんなことが改善されてきました。

若年定年でございますので、56 歳で退官する。そうすると、お子さんは高校生だったり中学生だったりするわけで、御存知のように自衛官は誕生日に退官しますから、土日を除く 365 日という言い方ですが、土日を除き年がら年中あちこちで退官の行事をやっているわけです。それで制服を脱ぐわけです。

辞めるその日まで全身全霊で国防の任に当たっておりますので、中々次の職探しという話にもならないわけです。国家として次の仕事を用意しなければいけない。海保のポスターがございます。資料 14 ページです。このポスターはすごく素敵だと思っ

ていて、「海上自衛隊で培った知識・経験を海上保安庁で活かしませんか」という言葉はすごく海上自衛官はうれしいものです。

また、農林水産大臣がおっしゃるように農業も漁業も林業も自衛隊で培ったスキルが活かせることがたくさんあるんだけど、なんとなくまだミスマッチなところがあって、どの業界もそうだと思うのですが、そのところミスマッチを解消することによって、退官してもスキルが活かせる。子供たちが、奥さんが喜んでくれる環境を作るのは国家の責務だろうと私は思っているところでございます。

- ・ 改善はみられておりますが、これが一過性のものに終わってはいかんのので、ぜひこの取組は継続してお願いをし、この右肩上がりの傾向がこれから先も続きますようにぜひ大臣・副大臣の皆様には心からお願いを申し上げる次第です。
- ・ この間舞鶴で海上自衛官の話を聞いたんですけど、家に帰って「おーい、聞いてくれ。国が俺たちを認めてくれたぞ。わかってくれたぞ」と言ってすごくうれしかったということであります。家族が「お父さん自衛隊で良かったね。お母さん自衛隊で良かったね」と言ってもらえる家庭を増やしたいと思っております。

引き続きどうぞよろしくお願いします。

● 最後に、石破内閣総理大臣から以下の発言があった。

- ・ 我が国の安全保障環境が厳しさを増す中で、防衛力の中核である自衛官の人材確保は、政府をあげて取り組むべき至上命題であります。
- ・ 本日の会議では、昨年１２月に取りまとめた「基本方針」が広く周知されていること、再就職先の拡充や定年年齢の引き上げの決定など各施策が着実に進展し、自衛官の勤務意欲や人材確保に効果が表れ始めていることを確認できました。今後とも、「基本方針」に基づき各施策を強力に推進していただきたいと思います。
- ・ 特に、若年定年退職者給付金の引き上げは、若くして定年を迎える自衛官の生涯設計確立のため不可欠であります。また、予備自衛官等を兼ねる公務員が有給休暇をとって訓練に参加している状況は速やかに見直す必要があります。政府一丸となってこれらの取組を令和８年度に実施するよう指示いたします。
- ・ 私自身、先月には舞鶴で現場の隊員と車座対話を行い、施策が有効であるとの声と共に、更なる対応を求める声も聞いたところであります。自衛官の人材確保という目標を達成するため、隊員のニーズを踏まえ、施策の見直しや新たな方策についても引き続き検討し、柔軟に実施してください。
- ・ 各大臣のリーダーシップに期待します。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

以上